

第1回子ども読書活動推進計画策定委員会

日時：平成22年6月8日（火）14：30～
会場：交通局4階 研修室

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 委員紹介

4 委員長・副委員長選出

5 議 題

(1) 子ども読書活動推進計画の改定について

(2) 「子どもの読書活動に関する意識調査」について

(3) 子ども読書活動推進計画の成果と課題について

6 その他

子ども読書フォーラムについて

7 閉 会

福岡市子ども読書活動推進計画の改定について

1 目的 平成17年3月に策定した「子ども読書活動推進計画」が策定から5年を経過し、また、この間、国が平成20年3月、県が平成22年3月に計画の改定を行ったことを踏まえ、これまでの成果と課題を整理し、計画の改定を行う。

2 組織 現計画の推進について包括的に検討してきた子ども読書活動推進会議とその作業部会として事業の企画・実施を行ってきた行政関係課のワーキンググループのメンバーを中心とする「子ども読書活動推進計画策定委員会」及び同ワーキンググループを組織し、改定に向けた協議を行う。

委員

学校関係者・図書館関係者・家庭教育関係者・社会教育関係者など（16名）及び行政関係課長（7課7名）で構成する。任期は第1回策定委員会開催の日から年度の末日まで。

ワーキンググループ

行政関係課係長等で構成（7課9名。必要に応じて関係課の係長を加える。）。会議は原則として、毎月1回程度を予定。また、策定委員会開催前にその準備会議として開催。

3 開催 年4回程度委員会開催（6月、8月、10月、2月頃を予定）

4 内容 子ども読書活動推進計画の改定

5 スケジュール

- 第1回** 子ども読書活動推進計画の改定について（成果と課題）
（6月） 各課に照会した「5年間の成果と課題」（集約結果）等を提示
- 第2回** 子ども読書活動推進計画の改定について（素案検討1回目）
（8月） 「ワーキンググループ」で作成した素案を提示、検討
- 第3回** 子ども読書活動推進計画の改定について（素案検討2回目）
（10月） 修正素案を提示、検討
- 第4回** 子ども読書活動推進計画の改定について（計画案決定）
（2月）

福岡市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱

(設置目的)

第1条 子どもの読書活動の推進、充実及び環境整備を図ることを目的に平成17年3月に策定された「福岡市子ども読書活動推進計画」（以下「読書推進計画」という。）が策定から5年を経過したことに伴い、これまでの成果と課題を整理し、本市の読書推進計画を改定するために、福岡市子ども読書活動推進計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 策定委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 読書推進計画の策定に関すること。
- (2) その他必要な事項に関すること。

(策定委員会の組織)

第3条 策定委員会は、別表1に掲げる委員をもって構成する。

- 2 委員の互選により、委員長及び副委員長をおく。
- 3 委員長は委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は委員長を補佐し、委員長が欠けたとき又は委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 5 委員の任期は、策定委員会設置の日から平成23年3月31日までとする。

(会議の招集)

第4条 策定委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員長は、必要に応じて委員以外の出席を求めることができる。

(ワーキンググループの設置)

第5条 読書推進計画の策定のため、策定委員会にワーキンググループを設置する。

- 2 ワーキンググループは、別表2に掲げる者をもって構成する。

(事務局)

第6条 策定委員会の事務局は、教育委員会教育支援部生涯学習課に置くものとする。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、平成22年4月14日から施行する。

子ども読書活動推進計画改定スケジュール

時 期	詳 細
22年4月	「子ども読書活動推進計画」評価シート作成 「子ども読書活動推進計画」関連施策調査
5月	社会教育委員会議にて計画改定説明 教育委員会議にて計画改定説明 第1回子ども読書活動推進計画改定のための会議開催（中旬） 子ども読書活動推進計画策定委員会委員決定
6月	第1回子ども読書活動推進計画策定委員会開催（上旬） 第2回子ども読書活動推進計画策定委員会ワーキング開催
7月	第3回子ども読書活動推進計画策定委員会ワーキング開催
8月	子ども教育委員会議開催 第4回子ども読書活動推進計画策定委員会ワーキング開催（上旬） 第2回子ども読書活動推進計画策定委員会開催（下旬）
9月	第5回子ども読書活動推進計画策定委員会ワーキング開催（上旬）
10月	第6回子ども読書活動推進計画策定委員会ワーキング開催（上旬） 第3回子ども読書活動推進計画策定委員会開催（下旬）
11月	第7回子ども読書活動推進計画策定委員会ワーキング開催（中旬） 教育委員会議にてパブリックコメント実施説明
12月	議会にパブリックコメント実施説明 第8回子ども読書活動推進計画策定委員会ワーキング開催（中旬） パブリックコメント実施（～1月）
23年1月	第9回子ども読書活動推進計画策定委員会ワーキング開催（中旬）
2月	第10回子ども読書活動推進計画策定委員会ワーキング開催（上旬） 第4回子ども読書活動推進計画策定委員会開催（中旬）
3月	教育委員会議にて新計画決定
4月	新計画発表
5月	社会教育委員会議にて新計画報告
6月	議会に新計画送付

子ども読書活動推進計画策定委員会委員

○ 委員

23人

分野	所属等	氏名(担当課)
学識経験者	子どもの読書・健全育成を専門分野とする人	生涯学習課
	〃	〃
社会教育関係者	社会教育を専門とする人	生涯学習課
学校図書館関係者	中学校図書館教育研究会会長	学校指導課
	小学校図書館教育研究委員会委員長	学校指導課
	司書教諭	学校指導課
	学校司書	学校指導課
	特別支援学校長	発達教育センター
家庭教育関係者	福岡市PTA協議会	生涯学習課
ボランティア活動者	ブックスタートボランティア	こども発達支援課
	学校図書館ボランティア	学校支援課
	図書館おはなしボランティア	図書利用課
	地域文庫活動者(ボランティア)	図書利用課
図書館関係者	総合図書館読書相談員等(司書)	図書利用課
コミュニティ	公民館長	公民館支援課
書店組合	書店組合代表	生涯学習課
子ども行政	こども未来局こども発達支援課長	西野 達彦
	保育所指導課長	福嶋 利明
コミュニティ行政	市民局 公民館支援課長	北崎 博三
教育行政	教育委員会教育支援部学校支援課長	橋爪 秀三
	指導部学校指導課長	長谷川弘明
	総合図書館図書利用課長	大串 計司
	教育支援部生涯学習課長	安部 修

福岡市子ども読書活動推進計画策定委員会委員名簿

○ 委 員

23人

分野	所 属	氏 名
学識経験者	九州情報大学副学長	安藤 延男
	佐賀女子短期大学准教授	白根 恵子
社会教育関係者	福岡市社会教育委員会議委員長	松尾 祐作
学校図書館関係者	中学校図書館教育研究委員会会長（元岡中学校長）	花木 成慈
	小学校図書館教育研究委員会委員長（舞鶴小学校長）	吉野 美智子
	司書教諭（春住小学校教諭）	池田 さくも
	学校司書（高取小・高取中）	片桐 由美子
	特別支援学校長（東福岡特別支援学校）	小関 正利
家庭教育関係者	福岡市PTA協議会副会長	多比良 啓子
ボランティア活動者	ブックスタートボランティア（絵本ふれあいタイム早良区代表）	田中 兆子
	学校図書館ボランティア（福岡市学校図書館よみきかせボランティアネットワーク）	甲斐 景子
	図書館おはなしボランティア（福岡おはなしの会代表）	八尋 理恵
	地域文庫活動者（小田部文庫）	鑪 しずこ
図書館関係者	図書館司書（総合図書館読書相談員）	小久井明京美
コミュニティ	公民館長（筑紫丘公民館長・福岡市公民館館長会副会長）	橋本 治美
書店組合	書店組合代表（福岡県書店商業組合理事長）	山口 尚之
子ども行政	こども未来局こども部こども発達支援課長	西野 達彦
	子育て支援部保育所指導課長	福嶋 利明
コミュニティ行政	市民局コミュニティ推進部公民館支援課長	北崎 博三
教育行政	教育委員会教育支援部学校支援課長	橋爪 秀三
	指導部学校指導課長	長谷川 弘明
	総合図書館図書利用課長	大串 計司
	教育支援部生涯学習課長	安部 修

子ども読書活動推進計画策定委員会

ワーキンググループメンバー

分野	所属・役職	氏名
学校図書館関係	教育委員会 教育支援部 学校支援課 指導計画係長	波多江 修
	〃 指導部 学校指導課 主任指導主事	中村 ゆみ
公立図書館関係	教育委員会 総合図書館 図書利用課 読書普及係長	有浦 長英
ブックスタート関係	こども未来局 こども部 こども発達支援課 母子保健係長	山田 哲也
乳幼児関係	こども未来局 子育て支援部 保育所指導課 研修第1係長	阿部 加奈子
コミュニティ行政	市民局 コミュニティ推進部 公民館支援課 公民館係長	木下 勝範
社会教育 (取りまとめ)	教育委員会 教育支援部 生涯学習課長	安部 修
	〃 社会教育係長	大森 哲子
	〃 社会教育係	萩尾 恵美子

※ ワーキンググループには上記メンバーのほか、必要に応じて関係する課の係長の出席を求める。

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性
A 子どもの成長に応じた家庭での読書習慣の定着を目指します							
1	「福岡市子ども本の日」の創設	教育委員会生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 子どものいる世帯への啓発リーフレットの配付 幼稚園、保育所、学校、図書館、公共施設でのポスター掲示、リーフレット、しおりの配付 市内書店でのポスター掲示 市政だより等による啓発 市立学校への毎月23日の啓発メール配信 子ども読書活動推進事業ホームページの掲示 	毎月23日のメールマガジンを始め、ポスターやチラシによる啓発により、学校等での周知は進んでいて、学校図書館での掲示や学校放送など学校独自の啓発もなされていることから効果は高い。	子ども読書フォーラムでの来場者アンケートなどから、一般市民に対する周知が進んでいない事がわかる。今後の啓発をどのように展開していくかが課題である。	B	拡充
2	ブックスタート事業	こども未来局こども発達支援課 総合図書館図書利用課	<ul style="list-style-type: none"> 4か月児健康診査において、お薦め絵本やリーフレットの配付、図書館や地域における文庫活動の情報提供、ボランティアによる読み聞かせの実演等を行う 絵本等配布人数 21年度 集計中 20年度 14,489人 19年度 13,699人 18年度 13,019人 17年度 12,316人 「絵本ふれあいタイム」ボランティア研修会(ブックスタートボランティア)実施 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会が平成21年度に実施した「子ども読書活動に関するアンケート」調査によると、前回調査(平成16年度、ブックスタート事業開始前)と比較して、下記のとおり、読み聞かせをしていない家庭が大幅に減少するとともに、虐待死亡のリスクが高いと言われている0歳児の読み聞かせを実施している家庭が大幅に増加している。 同調査では、読み聞かせをはじめたきっかけとしては、「4か月健診で絵本をもらって」が34.6%で最も多い。(その他の項目はいずれも10%未満) こども未来局が平成21年2月の1歳6か月児健診で実施したブックスタート事業についてのアンケート調査でも下記のとおり、配付した絵本がほぼ全ての家庭での読み聞かせに利用されており、また、1年後も95%超の家庭で読み聞かせが継続されている。 4か月児健康診査の機会を利用したブックスタートは、絵本を通して親子のふれあいの大切さ、楽しさを伝えられている。 4か月児健診で配布するお薦めの絵本とリーフレットに掲載する本の選定会議を開催。 4か月児健診に赤ちゃん向けおはなし会のお知らせも記載した福岡市の図書館の案内も配布した。 ボランティアに対する研修について、研修内容や講師についてボランティアの意見を取り入れながら開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年3月に福岡市が実施した「事業の仕分け」では、ブックスタート事業について、2次評価及び3次(外部)評価において「要改善」という評価結果であった。 その評価の理由としては、「絵本を無料で配付する事業手法の費用対効果を検証し、より効率的な方法の検討が必要」、「事業の目標(成果指標)の設定が必要」が主なものであった。 ブックスタート事業の費用対効果を検証は、親子の愛着形成の促進への効果を費用として換算することは難しいが、アンケート結果から、配付した絵本がほぼ全ての家庭で読み聞かせに使われていること、また、読み聞かせの開始年齢が早くなっていることなどから、ブックスタート事業の導入の効果は大きいと考える。 NPOブックスタートを通じて定価の約6割の金額で絵本を購入しており、費用削減に努めているところであるが、引き続きより効果的な方法を検討することが求められている。 ボランティアと各図書館との情報交換がうまくできていない。 	B	継続
3	家庭教育手帳の配付による啓発	教育委員会生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな感性や思いやりの心を育むことのできる読書の重要性と習慣づけについて啓発するため、4ヶ月児健診の保護者、小学1年生・小学5年生の保護者に家庭教育手帳を配付 4ヶ月児健診において、乳幼児編を保健福祉センターを通じて保護者に配付 小学1年生に小学生(低学年～中学年)編を各学校を通じて保護者に配付 小学5年生に小学生(高学年)～中学生編を各学校を通じて保護者に配付 <p>平成20年度までで配付終了。 平成21年度からは文部科学省ホームページ上に掲載していることを知らせた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育手帳を、4ヶ月健診、小学校1年生・小学校5年生に、それぞれの年齢に合わせて配布し、その中で、読書の大切さや保護者との関わりの大切さを直説伝える事ができた。読書が想像力や考える習慣を身につけ、豊かな感性や情操、思いやりの心を育み、親子一緒に本に親しむことが大切であること、家族のふれあいや会話を深める機会となるなど重要な家庭教育の一つである。福岡市の毎月23日を「福岡市子ども本の日」の啓発や小学校入学説明会等学習会等他の事業とも連携し、読書の大切さを啓発し普及に努め、徐々にではあるが効果は上がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文科省からの家庭教育手帳の配布が終了し、21年度からは、文科省ホームページにて家庭教育手帳の内容や活用方法の掲載となり、実際活用が難しくなった。 	B	継続
4	P T Aの取り組みへの支援	教育委員会生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> P T Aの研修、講演会で家庭教育推進とあわせて子どもの読書活動の推進を図った 各単位P T Aにおいて本の読み聞かせなどを実施 福岡市P T A協議会の協力を得てさ家庭共育事業として、読書の大切さも含めた「福岡市家庭教育10か条」を策定した 	<ul style="list-style-type: none"> 市P T A協議会と連携した取り組みが定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 市P T A協議会と共に、読書の大切さも含めた「福岡市家庭教育10か条」の周知を図る P T Aの読書活動活動の広がりへの支援に努める 	B	継続

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性
5	図書館での児童図書の収集、提供	総合図書館図書利用課	<ul style="list-style-type: none"> 児童図書の収集、提供 (蔵書冊数) 20年度 421, 499冊 19年度 414, 148冊 18年度 414, 070冊 17年度 408, 780冊 16年度 402, 418冊 15年度 388, 806冊 14年度 361, 615冊 	<ul style="list-style-type: none"> 各分野の児童図書の収集には、人気の本や話題の本だけにとらわれず、幅広い蔵書構成になるよう努めた。 毎月テーマを決めた児童図書の展示や、こどもとしょかんニュースでは、普段はなかなか目にとまらない本の紹介をした。 利用頻度、資料の重要性などを考慮し、書庫移動、除籍などを行い、利用しやすいように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な蔵書検索ができる人員はカウンターに常駐しているが、児童書専門の司書はカウンターに常駐していない。 	B	継続
6	保育所、幼稚園、学校等での保護者への読書の重要性についての啓発 (関係各課)	こども未来局保育所指導課 教育委員会学校指導課 教育委員会生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 世帯への啓発リーフレットの配布、各施設での掲示 入所式、保護者懇談会、育児講座等で、「福岡市子どもと本の日」の取り組みについて知らせていくと共に、絵本の読み聞かせ、読書の重要性について保護者に伝える 保育所(園)便り、絵本便りにより季節や年齢に合った絵本を紹介するとともに、読書の重要性を保護者に知らせる 夕方お迎え時、親子での読み聞かせ講座を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への啓発については、それぞれの施設での取り組みが影響しているが、どの施設も積極的な取り組みが増えていることが成果である。 毎月23日は「福岡市子どもと本の日」であることを各小中学校に通知し、積極的な読書活動の推進に取り組んできた。その結果、児童生徒の読書習慣が少しずつ身につくにつれ、平成21年度は初めて月平均読み上げ冊数が全国平均を上回った。 あらゆる機会を通しての情報提供により、子どもの成長にとって絵本の大切さや重要性が保護者へも浸透してきた。また、親子での読み聞かせ会を実施することで、保護者自身の絵本への関心も高まり、保護者への啓発が深まった。23日の「福岡市子どもと本の日」と「ノーテレビデー」を同日とすることで両者のアピールとなり、意識づけられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に確実に届くような、効果的な啓発方法を検討する必要がある。 各幼稚園においても、絵本の読み聞かせ等季節や発達段階にあった読書活動を推進しているが、現状を数値として把握する必要がある。 子育て支援を通じた絵本の重要性や価値についての認識を高める活動をより活発に行う。 	B	継続
B 地域において子どもの読書活動を推進します							
7	子どもに読ませたい本のリサイクルによる活用	市民局公民館支援課 教育委員会生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 子ども読書推進計画の周知を図る(啓発リーフレット等の配布) 本のリサイクルを行う公民館の取り組みを進める 本のリサイクルに関する情報の提供 公民館におけるリサイクル市の開催 	<ul style="list-style-type: none"> (公民館支援課) 本のリサイクルを行う公民館数は2～3館に止まっている。(生涯学習課) 子ども読書活動推進計画の周知について、各公民館へチラシ等を配布することで、来館者への啓発となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や公民館など、身近な場所での子どもの読書活動を推進する意義について、地域住民や公民館の理解を高める工夫が必要。 公民館の中で、福岡市子どもと本の日をより効果的にPRする方法を検討する必要がある。 	D	継続
8	公民館での読み聞かせサークルや文庫活動への支援 (市民局公民館支援課)	市民局公民館支援課	<ul style="list-style-type: none"> 子ども読書推進計画の周知を図る(啓発リーフレット等の配布) 乳幼児ふれあい学級や学校週5日制事業など公民館の事業の中で子ども読書活動の取り組みへの一層の理解を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健全育成関連事業や乳幼児ふれあい学級など、公民館事業の中で子どもの読書活動に取り組む公民館は延べ57の公民館で実施しており、乳幼児ふれあい学級においては、実施公民館のうち36%の公民館で読み聞かせを実施。(平成20年度実績) 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館利用者数は、平成20年度実績で延べ520万人に達し、利用者数は年々増加の傾向にあるが、利用者はグループ・サークル活動やコミュニティ活動が中心で、市民の2割強の人が利用しているにすぎない。 今後の課題として、新たな公民館利用者を発掘することにより新規利用者の増加が見込めれば、子どもの読書活動をサポートする人材の発掘ができるなど、さらに活発になると思われる。 	D	継続
9	公民館による学校週5日制関連事業や家庭教育学級での読書活動の推進 (市民局公民館支援課)	市民局公民館支援課	<ul style="list-style-type: none"> 子ども読書活動推進計画の周知のためのリーフレットの配布 乳幼児ふれあい学級や子ども健全育成関連事業の中での読み聞かせを実施 ※平成20年度から「学校週5日制関連事業」を「子ども健全育成関連事業」に変更 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健全育成関連事業や乳幼児ふれあい学級など、公民館事業の中で子どもの読書活動に取り組む公民館は延べ57の公民館で実施しており、乳幼児ふれあい学級においては、実施公民館のうち36%の公民館で読み聞かせを実施。(平成20年度実績) 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館利用者数は、平成20年度実績で延べ520万人に達し、利用者数は年々増加の傾向にあるが、利用者はグループ・サークル活動やコミュニティ活動が中心で、市民の2割強の人が利用しているにすぎない。 今後の課題として、新たな公民館利用者を発掘することにより新規利用者の増加が見込めれば、子どもの読書活動をサポートする人材の発掘ができるなど、さらに活発になると思われる。 	D	継続

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性
10	地域の文庫活動団体への支援 (総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	<ul style="list-style-type: none"> ・図書、文庫用品の貸し出し ・文庫活動ボランティア講座の開催 ・除籍図書の譲渡会を開催（年1回） ・地域文庫交流会の開催（年1回） (登録団体数) 21年度末 311団体 20年度末 304団体 19年度末 290団体 18年度末 272団体 17年度末 261団体 16年度末 249団体	<ul style="list-style-type: none"> ・新規登録団体は毎年増加傾向にあり、それに伴い配本冊数も増加しており、地域で活用されている。 ・登録団体への除籍図書の無償譲渡、文庫用品の貸出を行っている、地域で活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAや留守家庭子ども会を含む小学校関係の団体登録が特に増加しており、現行の配本体制が限界に近づいている。 	B	継続
11	学校図書館の子どもたちへの開放	教育委員会生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校における聞き取り及び実態調査の実施（博多小・元 岡中他） ・学校図書館の地域開放に関する調査を実施 ・他都市調査を実施 	調査研究の結果、特に地域の状況から開放を必要とされている学校については、図書館も協力し、開放していることがわかった。	地域開放のとらえ方について、土・日に限定せず、児童・生徒以外の保護者やボランティアに対して、本の閲覧や貸出をすることは可能性が大きい。	C	継続
12	子どもプラザにおける子どもの読書活動の推進	子ども未来局地域子育て支援課	子どもプラザにおいて子どもへの絵本の読み聞かせ等を実施。 [各区の取り組み] 年間事業計画を立て、実施 [事業の実施状況] 共通:「子どもと本の日」を広報。閲覧用の絵本の常設。 東区:絵本の読み聞かせ(毎月23日,年12回) 博多区:絵本の読み聞かせ(月2回) 団体貸し出し図書の活用 プラザ通信でのおすすめ絵本の紹介 中央区:絵本の読み聞かせ (子育てミニ講座で年8回) 閲覧用絵本の貸し出し プラザ通信で購入絵本等の紹介 南区:絵本の読み聞かせ (「誕生会」2か月に1回及び毎月23日「絵本と手遊び」毎週火・木・土(1日2回)) 城南区:閲覧用絵本の貸し出し 早良区:絵本の読み聞かせ(月2回) 西区:絵本の読み聞かせ(月1回) 団体貸し出し図書の活用(月2回) ・平成21年10月より「次郎丸子どもプラザ」開設。絵本の読み聞かせ(月2回) ・平成22年3月 子どもプラザ6か所開設(合計市内14か所で開設)	絵本の常設や図書の貸し出し、また、定期的な読み聞かせの実施により、子どもが本に触れるきっかけづくりとなった。	設置する図書や読み聞かせ等の企画の充実	B	継続

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性																		
13	市関連施設での子どもの読書活動の推進 (関係各課)	海の中道青少年海の家	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月発行している「海からのメッセージ」に、読書案内のコーナーの設置。 ・主催事業における読み聞かせの実施。 ・「かいだ文庫」の設置。 ・総合図書館からの図書の借り入れ。 ・定期発行紙で読書案内を継続。 ・主催事業での読み聞かせを拡充。 ・利用団体、特に家族利用者の雨天プログラムなどでの読書活動を支援。 	利用団体、特に家族利用者の、雨天プログラムなどで読書活動を支援。家族利用者が、読みたいと思ったときに、近くにながある状況である	今まで図書の選定を、図書館に依頼していたが、平成22年度から海の中道青少年海を家の職員が図書館に赴き図書の選定を行う予定である。	B	継続																		
13		少年科学文化会館	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども向け、科学関係の図書資料等の収集、提供 ・毎月発行の図書室だよりに「子どもと本の日」を広報掲示 	平成19年10月より総合図書館等との端末による検索ネットワークが整備され、取り寄せ・返却についての利便性が格段に向上した。1日平均貸出冊数は180冊～200冊を維持しており、読書活動の推進に寄与している。	図書費の予算等が減少方向にあり、より利用者のニーズにあった本の購入等が求められている。	B	継続																		
13		中央児童会館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の貸し出し及び閲覧 ・読み聞かせを行う「おはなし会」の開催 毎月第1火曜日 長期休み中（夏休み2回、冬休み・春休み各1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせを行う「おはなし会」について、長期休み中の開催は19年度までは夏休みのみであったが、20年度からは夏休み2回、冬休み・春休み各1回と拡充を図り、その結果、参加者数も増加した。（平成17年度参加者総数762人→平成21年度参加者総数1,363人） ・図書の貸し出し及び閲覧については、21年度に児童館ホームページを開設し、ホームページ上で新刊・おすすめ本の紹介や蔵書検索をできるようにし、利用者の利便性向上を図った。 	・特になし	B	継続																		
13		市民福祉プラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉分野に関する子ども向け図書の収集、貸し出し 	市民福祉プラザの福祉図書・情報室においては、福祉に関する児童書・絵本等の収集を継続して行っており、平成16年度末では1,247冊だったこれらの蔵書数が平成21年度末においては1,497冊となっている。 これに伴い、上記児童書・絵本の貸出冊数が平成16年度ではのべ1,364冊だったのに対し、平成21年度ではのべ2,199冊と大きく増加しており、子どもの福祉学習に役立っているものとする。	福祉に関するニーズや内容を考慮しながら、図書を収集していく必要がある。	B	継続																		
13		人権のまちづくり館	<ul style="list-style-type: none"> ・各まちづくり館に図書室・図書コーナーを設けて子どもたちの交流を促進するため、人権関係図書をはじめ児童図書の充実を図っている 	計画どおり、図書の配置を行なった。	人権のまちづくり館に図書貸出機能があることが、地域住民に十分浸透していない。	C	継続																		
C 図書館において子どもの読書活動を推進します																									
子どもの読書活動を推進する図書資料の充実																									
14	子どもの成長に役立つ児童書の収集等(総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	<ul style="list-style-type: none"> ・児童図書の収集、提供 (蔵書冊数) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>21年度</td><td>422</td><td>341冊</td></tr> <tr><td>20年度</td><td>421</td><td>499冊</td></tr> <tr><td>19年度</td><td>414</td><td>148冊</td></tr> <tr><td>18年度</td><td>414</td><td>070冊</td></tr> <tr><td>17年度</td><td>408</td><td>780冊</td></tr> <tr><td>16年度</td><td>402</td><td>418冊</td></tr> </table>	21年度	422	341冊	20年度	421	499冊	19年度	414	148冊	18年度	414	070冊	17年度	408	780冊	16年度	402	418冊	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野の児童図書の収集には、人気の本や話題の本だけにとらわれず、幅広い蔵書構成になるよう努めた。 ・毎月テーマを決めた児童図書の展示や、こどもとしゃかんニュースでは、普段はなかなか目にとまらない本の紹介をした。 ・利用頻度、資料の重要性などを考慮し、書庫移動、除籍などを行い、利用しやすいように努めている。 ・以前のこども図書館カウンターは、常時1名確保することも難しかったが、利用案内やクイックレファレンス、貸出をする委託を1名常駐させることにより（平成21年度より）、司書がレファレンスや読書相談に割ける時間が増え、利用者のサービス向上につながった。あわせてレファレンス件数も大幅に増加した。（平成20年度7,329件→平成21年度11,315件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合図書館が開館してから10年以上経過し、傷みが激しく買い換えが必要な図書（永く読み継がれている作品など）が多いが、そのための予算確保。 ・簡単な蔵書検索ができる人員はカウンターに常駐しているが、児童書専門の司書はカウンターに常駐していない。 	B	継続
21年度	422	341冊																							
20年度	421	499冊																							
19年度	414	148冊																							
18年度	414	070冊																							
17年度	408	780冊																							
16年度	402	418冊																							

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性
15	子どもの読書、児童文化の研究のための図書の収集(総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	・児童研究資料の収集、提供 (蔵書冊数) 21年度 26,340冊 20年度 26,070冊 19年度 25,476冊 18年度 25,337冊 17年度 24,862冊 16年度 24,076冊	・子どもの読書、児童文化に関わっている市民に役立つ実用的な資料や、理論的な資料や復刻版などの歴史的価値のある資料を収集した。 ・児童研究資料コーナー独自の分類体系により書架に並べ、子どもの読書や児童文化について調べている利用者が、集中して資料を探せるようにしている。	年々、図書購入費が減少している。	B	継続
16	世界の絵本の収集(総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	・外国の絵本の収集、提供 (蔵書冊数) 21年度 67カ国 5,316冊 20年度 67カ国 5,293冊 19年度 67カ国 5,277冊 18年度 67カ国 5,208冊 17年度 67カ国、5,087冊	・著名な賞を受けた作品を中心に世界各国の絵本を収集し、市内に居住する外国人の子どもに母国の絵本を提供すると共に、日本の子ども達にとっては絵を通して外国の人々や自然に触れ、国際理解の一助となった。 ・〇世界の絵本の配架については、言語別と国別、両方の希望があるため、どちらも分かるように、新たにラベルを作成・添付し、国別の配架にした。	国ごとのバランスを見ながら収集したいと考えているが、欧米以外の国の絵本の収集が難しい。	B	継続
17	大学との連携(総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	・9大学14図書館と連携 ・他大学図書館に協力依頼	公共図書館では所蔵していない専門書や学術書を利用者へ提供することにより、利用者サービスの向上と資料の有効活用が図れた。	市外の大学図書館などとの相互貸借のネットワーク拡大について検討。	B	継続
子どもの読書活動推進のための事業の充実							
18	インターネットによる図書資料の検索と予約(総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	・予約システムの運用を開始した。(19年10月)	平成19年10月10日よりインターネットによる予約システムが運用開始し、図書利用の利便性が大幅に向上した。 (参考) ・平成21年度総予約件数 660,726件(内インターネット予約334,521件) ・平成18年度(システム運用開始前) 総予約件数 397,264件	平成22年4月よりインターネットから予約できる冊数を5冊から10冊に拡大したが、予約件数は増加しており、それに応じた図書資料の物流体制の見直しの必要がある。	B	継続
19	おはなし会の実施(総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	おはなし会の開催 総合 毎週土・日曜日 和白 毎週土曜日 東 毎週土曜日 博多 第2・4土曜日、第3日曜日 博多南 毎週土曜日 中央 毎週土曜日 南 毎週土曜日 城南 第1～4土曜日 早良 毎週土曜日 西 毎週土曜日	定例のおはなし会やこどもの日、クリスマスの特別おはなし会などで、読み聞かせ、ストーリーテリング、紙芝居等を通じて、子どもたちにおはなしの楽しさを伝え、読書へのきっかけづくりを進めた。	読み聞かせボランティアとの協働で行っているが、報償費の確保が難しい。	B	継続
20	ブックスタート事業のフォローアップ(総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	・図書館において乳幼児向けおはなし会を実施 ・赤ちゃん向け図書の収集・提供 (赤ちゃんおはなし会実施状況) 総合、和白、東、博多、博多南、中央、南、早良、西、城南	・総合図書館では、あかちゃんえほんコーナーを設置するとともに、赤ちゃん向けの絵本の充実を図った。 ・乳幼児検診時に配布する絵本リストの見直しを行うとともに、平成21年度からは総合図書館及び全分館において、毎月乳幼児向けのおはなし会を行った。平成21年度5月より、全ての分館で実施。	・赤ちゃん向けの絵本は他の絵本と比べて傷むのが早く、買い換え頻度が高いが、そのための予算確保。 ・4ヶ月検診時に図書館の乳幼児向けおはなし会の情報や図書館利用の方法などの効果的なPRを検討。	B	継続

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性
21	子ども対象イベントの実施 (総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	・総合図書館において、図書館わくわく探検を実施 17年度から8月に実施 ・分館において、工作教室、折り紙教室を開催	子ども対象のイベントを行うことにより、図書館来館の機会をつくり、あわせて子どもたちに図書館の役割や利用方法などを学習する機会を提供することにより、子どもたちの読書意欲を高揚させ、本に興味を持ってもらうきっかけとした。	図書館の人員はカウンターを運営する配置であり、イベントの運営のための人員確保。 図書館わくわく探検隊は図書館のバックステージツアーであるが、一度に参加できる人数には限りがある。 図書館の団体見学は常時受付しており、小学校もよく利用しており、図書館わくわく探検隊と類似している。	B	継続
児童図書や子どもの読書に関する情報の提供							
22	モデル児童図書目録の刊行 (総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	・モデル児童図書目録を配布 ・モデル児童図書目録(中級)の改訂、改訂版発行 ・モデル児童図書目録(上級)の改訂作業	・モデル児童図書目録(中級)の改訂版を発行した。 ・子どもにどんな本を勧めたらいいか悩んでいる大人や、何か面白い本を探している子どもの、本選びの助けとなっている。 ・モデル児童図書目録(中級)の改訂作業(抽出・選定)を行った。	・モデル児童図書の存在をあまり周知できていない。	B	継続
23	図書館ニュースの発行 (総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	・「こどもとしょかんニュース」を発行し、幼稚園、小・中学校、公民館等に配布 発行部数 2,900部	・新しい本の紹介や行事の案内、図書館の利用法等を掲載した「こどもとしょかんニュース」をほぼ毎月発行し、公立図書館、小・中学校、幼稚園、保育所、公民館等にも配布し、こども図書館の利用拡大、情報提供を行った。	・限られた予算の中で、効果的な広報ができるよう、内容や発行方法等の工夫検討。	B	継続
24	児童文学講演会の開催 (総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	・児童文学講演会を開催 21年度 2回開催 参加人員 104名 20年度 2回開催 参加人員 78名 19年度 2回開催 参加人員 77名 18年度 2回開催 参加人員 116名 17年度 4回開催 参加人員 113名	・児童文学作家や絵本作家、児童文学の出版に携わる方等を招いて児童文学に関する講演会を開催し、児童文学に関する情報を提供し、児童図書や読書活動への理解を深めた。アンケートでも好評を得ている。	・定員割れが続いているため、講演会の内容やPR方法について検討する。 ・講師は著名な作家より児童文学に造詣が深い方や、様々な分野で子どもの読書活動推進で活躍している方で検討。	B	継続
子どもの読書活動に関するボランティア活動の支援							
25	図書やおはなし会用具の団体貸出し (総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	・図書の団体貸出を実施 ・登録団体に文庫用品を貸し出し ・除籍図書の譲渡会を開催(10月) (登録団体数) 21年度末 311団体 20年度末 304団体 19年度末 290団体 18年度末 272団体 17年度末 261団体 16年度末 249団体	・登録団体は毎年増加傾向にあり、それに伴い配本冊数も増加しており、地域で活用されている。 ・登録団体への除籍図書の無償譲渡、文庫用品の貸出を行い、地域で活用されている。登録団体は毎年増加している。今後も図書の充実と地域文庫活動への支援に努める。	・PTAや留守家庭こども会を含む小学校関係の団体登録が特に増加しており、現行の配本体制が限界に近づいている。	B	継続
26	文庫活動ボランティア講座の開催(総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	・文庫活動ボランティア講座(初心者コース5回)を開催 ・内容 絵本の読み聞かせ等 ・参加人数(延べ人数) 21年度 427人 20年度 376人 19年度 434人 18年度 393人 17年度 161人 ・文庫活動ボランティア講座(経験者コース5回)を開催 ・内容 ストーリーテリング等 ・参加人数(延べ人数) 21年度 157人 20年度 106人 19年度 178人 18年度 205人 17年度 88人	・読書ボランティアに関する市民の興味は非常に高く、毎年多数の応募があつている。 本講座を通じ初心者の方が地域の読書ボランティアグループに加入したり、参加者からの紹介で加入し活動される事例もみられ、読書ボランティアの育成が良い形でできている。	・限られた予算の中で開催可能な回数が減少している。 ・講師は著名な作家等より、様々な分野で子どもの読書活動推進で活躍している方を検討するなど内容の見直しが必要。	B	継続

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性
27	地域文庫交流会の開催 (総合図書館図書利用課)	総合図書館図書利用課	・地域文庫交流会を開催 (年1回、2月)	・各団体間の情報交換を図るため交流会を開催すると同時に 研修会を開催し、ボランティアの資質向上を図った。	・交流会に続き研修会を行っており、交流の場としての 十分な時間が確保できていない。	C	継続
28	ボランティア団体への 支援 (総合図書館図書利用 課)	総合図書館図書利用課	・布の絵本づくり講習会の共催 ・子どもの読書に関わるボランティア団体の会合、勉強会に会 場を提供 ・一日おはなし会の共催(7月)	・総合図書館の会議室やおはなしの家を、空いている時間 に、子どもの読書に関わるボランティア団体の会合や勉強会 の会場として提供した。 ・ボランティア団体が主催する「一日おはなし会」「布の絵 本づくり講習会」を共催した。 ・子どもの読書に関わる人々に役立つ実用的な資料や理論的 な資料等を積極的に収集し、提供した。 ・こども図書館には、読み聞かせボランティアや学校図書館 ボランティアなどの来館も多く、レファレンスにも対応し た。	簡単な蔵書検索ができる人員はカウンターに常駐してい るが、児童書専門の司書は常駐ではない。	B	継続
29	視覚障がいのある子ど もへの点字図書館の周 知	こども未来局こども発達支援課	・県内の4盲学校をはじめとした教育機関、心障センター視 障がい児部門・生明学園等視覚障がい児関係施設に点字図書館 だよりを配布(隔月) ・心障センター視覚障がい児部門において、保護者に対し園だ より等により点字図書館を紹介、また、点字絵本やさわる絵 本、録音図書等を紹介・貸出	・「点字図書館だより」は、リハビリテーション課とも情報 共有するため、センターの1階と6階のロビーにて閲覧でき るよう設置した。 ・点字絵本や触る絵本は療育室内にて紹介、貸出を行うこと で、子どもの反応が良好だった場合は保護者が自宅用に購入 することがみられた。 ・点字図書館と協力して作成した声の絵本「がたんごとん」 は、低年齢の子どもを中心に楽しんでおり、読み聞かせに対 して子どもが意欲的になることがみられた。	特になし。	B	継続
D 学校教育等において読書活動を推進し、学校図書館を充実します							
保育所							
30	日常保育の中での読み 聞かせの充実	こども未来局保育所指導課	・年間を通して日常的(1日の朝・昼・帰り等に2回～3回) に、年齢、季節、行事等を考慮して、継続的に読み聞かせを行 う	・日々の絵本の読み聞かせを継続的に行うことで、子どもの 情緒の安定が図られ、絵本の楽しさを味わうとともに、豊か な感性と表現力を培うことにつながっている。また、1日の 保育の中で、読み聞かせによる「静」の時間を持つことが集 中力や聴く力を高めている。保護者も絵本を楽しむ子どもの 姿や絵本を通しての成長を見ることにより、保護者自身の絵 本への関心も高まり、家庭での読み聞かせへとつながって いった。	・子どもの年齢や発達、興味や関心に応じた絵本の充実 と子どもにあった絵本を選択するために、保育士のさら なる資質向上を図る。	A	継続
31	家庭との連携による読 み聞かせの推進	こども未来局保育所指導課	・保育所便り、絵本便り、連絡ノート、掲示板等で読み聞かせ の推進を図る(絵本の紹介、情報提供) ・貸し出し絵本による家庭での読み聞かせの推進を図る ・親子参加の絵本の読み聞かせの会を実施	・あらゆる機会を通しての情報提供により、子どもの成長に とって絵本の大切さや重要性が保護者へも浸透してきた。 ・クラスでの読み聞かせが、貸し出し絵本の利用の増加につ ながった。また、絵本コーナーでの親子の会話や保護者同士 の会話が増え、そのつながりやコミュニケーションが深まる 場ともなっている。 ・親子参加の絵本読み聞かせ会は、親子ふれ合いの貴重な時 間となっており、貸し出し絵本や家庭での読み聞かせにつな がっていった。 ・絵本貸し出しや親子読み聞かせ会の日を公立保育所全園で 取り組んでいる「ノーテレビデー」と同日にすることで、親 子のふれ合う時間を、より確かなものとしていった。	・絵本貸し出しや親子読み聞かせ会は、定着化している 反面、固定化の傾向も見られる。これらへの参加が少な い子どもや保護者への働きかけを今後も継続して行う。	B	継続

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性
32	関係機関・地域ボランティアとの連携の推進	こども未来局保育所指導課	<ul style="list-style-type: none"> 総合図書館、読書ボランティア、地域関係機関との連携を進める(年1～12回) 保育所職員の資質の向上と保護者の啓発を兼ね、保護者と職員との合同研修を年1回、又、各保育所での職場内研修を年1回～2回実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地域関係機関や「おはなしの会」ボランティア、また、中学生ボランティアなど、年々連携が深まってきている。 職員においては、日頃の学習の成果で、地域の子育て支援として絵本について話したり、読み聞かせに出かける機会が増えた。 学校との連携の中で、小学生・中学生・高校生から読み聞かせをしてもらう機会が増え、互いに本への興味・関心が深まるとともに、心の安定につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の資質の向上を図り、専門的な知識と実践を深めるために、職場内研修の充実を図る。 保育所外での絵本の講座や読み聞かせの場をさらに広げていく。 	B	継続
33	絵本コーナー・貸し出し圖書の充実	こども未来局保育所指導課	<ul style="list-style-type: none"> 総合図書館との連携の中で、図書に団体貸し出し利用等により、図書の充実を図った(年2回～4回、400～800冊) コーナーを利用し、季節や年齢に応じた絵本の紹介や掲示をし、環境整備に努めた(コーナー常設、毎日の絵本紹介、月ごとの環境整備等) 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本コーナーの環境を工夫し整えることで、居心地の良い場となり、親子や親同士がつながる場ともなった。また、貸し出しの増加にもつながった。 総合図書館の団体貸し出しを利用することにより、絵本の充実を図ることができ、子どもたちも多くの絵本に触れる機会が持った。 子育てや食育等に関する保護者向けの本を充実させたことで、保護者自身の貸し出し利用が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの保護者の絵本への関心が高まるよう、各クラスの貸し出し状況や人気の絵本、その他の様々な情報を絵本コーナー等で発信し、さらに読書活動に親しめる環境作りに努める。 	B	継続
障がい児施設							
34	療育中での読み聞かせの推進	こども未来局こども発達支援課	<ul style="list-style-type: none"> 発達や障がいにあわせた図書の選択、配慮、工夫を向上させながら、療育中での読み聞かせを充実し、子どもたちが本の世界に親しめるように環境を整える 子どもが楽しめるような本の精選 歌紙芝居の活用(独自に作成もあり) ペープサートで動きを作り、視覚的補助を行った 個人用の紙芝居を作成(視覚障がい児向け) 声の絵本(盲児向け)や拡大絵本(弱視児向け)を作成、活用 保育の場面で保護者に本を読んでもらう、助言等の支援を実施(親子通園) 絵本の貸し出しを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 知的障がい・発達障がい児の親子通園部門では、毎回の療育で歌紙芝居を読み聞かせたりペープサートを見せたりする時間を設定し、子どもが絵本に親しむ導入となるよう取り組んでいる。他の絵本にはあまり興味を示さない子どもも、療育で親しんだ歌紙芝居の絵本であれば自分から見て楽しむ姿がみられた。 難聴児の親子通園部門では、課題内容や季節の行事等に応じて紙芝居や絵本を読み聞かせている。低年齢の子どもには、絵本だけではなくペープサートや模型を使いながら絵本の内容のイメージをふくらませよう工夫している。繰り返し絵本を見ることで、注目し楽しむ姿がみられた。 	特になし	B	継続
35	関係機関・地域ボランティアとの連携による取り組みの充実	こども未来局こども発達支援課	<ul style="list-style-type: none"> 出版業者、点字図書館のほか、おもちゃ図書館、朗読・拡大写本等のボランティア団体との連携により、障がいのある子どもたち向けの図書の作成、充実を図り、保護者にも活用を勧める 視覚障がい児用に声の本を作成、貸出(心障センター) 拡大写本ボランティアの協力による視覚障がい児向け拡大絵本の作成・活用 読み聞かせボランティアの協力による絵本の読み聞かせ(あいあいセンター、西部療育センター) 肢体不自由児を中心とした児童の注目を促すための教材「ロールシアター」をボランティアの協力により作成(西部療育センター) 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大写本ボランティアサークルに依頼し、絵本や紙芝居の拡大写本を作成してもらい、弱視児への読み聞かせに活用した。センターより、絵本の選定、文字の大きさ、色合い等の助言を行うことで、来所している子ども達により楽しみやすく、療育場面で活用しやすいものとなっている。 	特になし	A	継続

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性																								
幼稚園																															
36	教育課程における読書活動の推進と保護者への啓発	教育委員会学校指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観や学級懇談の日に読書の大切さを保護者に周知したり、発達に応じた絵本の紹介及び子どもと本の日を紹介 ・教育指導計画の中に、各月に使用する絵本や園行事にお話し会や絵本の読み聞かせを位置付け、朝の集まりや帰りの会で継続的に読み聞かせを行った。 ・毎月、本を借りて帰る週間を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育指導計画の中に、季節や行事・発達段階に応じて読み聞かせをする絵本を位置づけ、計画的に絵本や紙芝居の読み聞かせを実施することにより、年長児になるにつれて、絵本や童話に興味をもち、友達と一緒に進んで読書活動に親しむ姿が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各園で、学級懇談の日に読書活動の大切さを保護者に啓発している。各家庭での実践状況を把握する必要がある。 	B	継続																								
37	地域ボランティアとの連携による取り組みの充実	教育委員会学校指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡会において、先進的な園の取り組みを紹介 ・朝の会等での図書ボランティアや地域のおはなし会による読み聞かせを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年8月24日の連絡会において、先進的な取組を行っている学校の実践発表や各校種ごとの分科会で交流会をもった。事後のアンケート結果によると90%以上の参加者が「参考になった」と答えており、連絡会自体は大変有効であった。幼稚園部会の先生方も他園の読書活動の取組を聞くことができ、「参考になった」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各園ごとに「月1回のお話会」「地域ボランティアによる読み聞かせ」等創意工夫して読書活動に取り組んでいるが、どの園で・どのような取組を・どの程度行っているのか把握する必要がある。 	B	拡充																								
38	保護者の子どもの読書活動を推進する取り組みの支援	教育委員会学校指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の読書活動を推進するよう取り組み内容の充実を図る ・学級懇談や園だより、学級便りを通して読書の大切さや適切な本の選び方について話をする。 ・教諭とボランティアが連携する研修を行う ・借りて帰る本の実態をもとに意見交流や図書相談の場を設定する ・貸し出した本について、保護者との連絡帳を通して意見交流や図書相談を行なった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発の効果により、保護者のボランティアへの参加が増加した。(図書整備、読み聞かせ) ・教諭と保護者との本に関する交流が、家庭での子どもの読書に好影響を与えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各園ごとに園保有の絵本の貸出は行っているが、各家庭でどのように読み聞かせが推進されているか、状況を把握する必要がある。 	B	継続																								
小・中学校																															
39	朝の読書活動等の一層の普及	教育委員会学校指導課	<p>「朝の読書活動」などを、子どもの実態や各学校の状況を考慮した上で、読み聞かせなどを行う学校図書館ボランティアとの連携を図りながら、一層の普及を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡会や研修会における、先進的な学校の取組 学校図書館教育担当者連絡会において、先進的な学校の取り組みを発表 <p>(取り組み状況)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>21年度：小学校</td> <td>120校</td> <td>中学校</td> <td>46校</td> </tr> <tr> <td>20年度：小学校</td> <td>143校</td> <td>中学校</td> <td>45校</td> </tr> <tr> <td>19年度：小学校</td> <td>136校</td> <td>中学校</td> <td>46校</td> </tr> <tr> <td>18年度：小学校</td> <td>144校</td> <td>中学校</td> <td>44校</td> </tr> <tr> <td>17年度：小学校</td> <td>119校</td> <td>中学校</td> <td>45校</td> </tr> <tr> <td>16年度：小学校</td> <td>117校</td> <td>中学校</td> <td>44校</td> </tr> </table>	21年度：小学校	120校	中学校	46校	20年度：小学校	143校	中学校	45校	19年度：小学校	136校	中学校	46校	18年度：小学校	144校	中学校	44校	17年度：小学校	119校	中学校	45校	16年度：小学校	117校	中学校	44校	<ul style="list-style-type: none"> ・8月24日の連絡会において、先進的な取組を行っている学校の実践発表や各校種ごとの分科会で交流会をもった。事後のアンケート結果によると90%以上の参加者が「参考になった」と答えており、連絡会自体は大変有効であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で実施校が減少している原因の把握。 ・中学校で実施できない学校の要因の把握。 ・各校の朝読書の形態(読書ボランティアの活用や一人読みの把握)。 ・連絡会のさらなる充実とその内容をどのように学校現場に反映させるかの手立て。 	B	継続
21年度：小学校	120校	中学校	46校																												
20年度：小学校	143校	中学校	45校																												
19年度：小学校	136校	中学校	46校																												
18年度：小学校	144校	中学校	44校																												
17年度：小学校	119校	中学校	45校																												
16年度：小学校	117校	中学校	44校																												

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性
40	子どもたちにとって魅力ある図書の整備	教育委員会学校指導課 学事課	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館教育担当者連絡会や司書教諭の研修会を通して、図書館整備について依頼 ・学校図書館教育担当者連絡会を、8月に実施して内容の充実を図った ・連絡会や研修会において、先進的な学校図書館整備の取り組みを紹介 ・8月学校図書館教育担当者連絡会において、先進的な学校の取り組みについて発表。 <p>(学校図書館図書標準達成率) ※平成21年度集計中 20年度 小学校97.2% 中学校115.4% 19年度 小学校95.9% 中学校115.4% 18年度 小学校94.4% 中学校114.2% 17年度 小学校97.3% 中学校114.1% 16年度 小学校98.6% 中学校113.3%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書研修や学校図書館担当者連絡会等の研修を通して、効果的な配架の在り方等環境整備の仕方を情報交換している。その結果、児童生徒が図書室に通う回数が増え、読み上げ冊数も増えてきている。 ・学校図書館図書標準達成率の低い学校に対し、図書の整備を重点的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡会では創意工夫ある実践が紹介され、他の学校にとって大いに参考になった。 ・図書の整備状況には学校ごとにばらつきがあり、学校図書館図書標準達成率が100%を大きく超える学校から、70%台の学校まで、学校間でかなりの開きが見受けられる。このため、学校ごとの児童生徒の読書活動に差ができる可能性があり、児童生徒の健全な教育という点から見ると、大きな問題である。 	B	拡充
41	夏休み期間中の学校図書館の開館	教育委員会学校指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の実施及び本年度の実施予定について調査を実施 ・児童や学校の安全面について特に配慮しながら、その必要性やねらいと具体的な方法について検討 <p>(夏期休業中における図書館開放校数) 21年度：小学校 8校 中学校 1校 20年度：小学校 18校 中学校 13校 19年度：小学校 23校 中学校 14校 18年度：小学校 18校 中学校 6校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の取組で、一部開放を実施している学校が増加している。 (対象を保護者や児童生徒に限定、留守家庭保護者会への貸出、登校日を活用した開館など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・21年度は、学校図書館の改修工事や新型インフルエンザの対応により小中ともに開館が少なかった。児童や学校の安全面について配慮しながら、必要性やねらい、具体的な方法などについてさらに学校に対して指導を行っていく必要がある。 	B	変更
42	司書教諭の配置の充実	教育委員会学校指導課 教育委員会教職員課	<ul style="list-style-type: none"> ・各教育機関における司書教諭講習実施について各学校へ周知 ・過去に司書教諭講習を受講し、資格取得まで至っていない教諭への受講促進 ・司書教諭講習未受講者への受講促進(有資格者数) <p>平成21年度 765名 20年度 719名 19年度 690名 18年度 659名 17年度 546名 16年度 506名</p> <p>※未配置校 平成21年度 8校 20年度 5校 19年度 7校 18年度 7校 17年度 15校 16年度 17校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭講習実施について各学校へ周知し、講習受講を促進している結果、有資格者が増加している。既に配置対象校数を上回る有資格者を確保している。 ・有資格者が増加したことにより、司書教諭未配置校も減少傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に小規模校において、人事異動により前年度司書教諭を配置できていた学校でも未配置校となることがある。引き続き司書教諭講習受講を促進する必要がある。 	B	継続

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性
43	学校司書の配置の充実	教育委員会学校支援課 教育委員会学校指導課 教育委員会職員課	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動推進のための学校司書のモデル的な設置 連絡会、研修会の充実 モデル校の司書配置の効果を検証 中学校ブロックでの司書配置の効果を検証(学校司書配置数) <p>平成21年度 30名 20年度 15名 19年度 15名 18年度 15名 17年度 15名 16年度 15名</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校司書を配置することにより、平成21年度は児童生徒の月平均読み上げ冊数が、はじめて全国平均を上回った。(小学校11.3冊、中学校3.9冊) 配置校においては、図書館に来館する回数や教科の学習に図書館の本を利用する割合が、未配置校よりも高い結果が出た。(平成21年度調査) 	<ul style="list-style-type: none"> 未配置校への支援のあり方 30名の学校司書の効果的な配置方法 学校司書配置効果の検証 	A	拡充
44	すべての小・中学校における図書館ボランティアの活動	教育委員会学校支援課 教育委員会学校指導課	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館担当者連絡会において、図書館ボランティアの活動事例を紹介 学校図書館ボランティア研修会を開催(ボランティアの心構え、実践紹介、学校司書との連携について) 学校図書館教育担当者(司書教諭)保護者、ボランティア共同研修会の開催(20年度) 学校図書館支援センター主催の研修会の開催(20年度) 学校図書館ボランティア設置校の調査 <p>平成21年度139校(小133校、中6校) 20年度134校(小130校、中4校) 19年度136校(小126校、中10校) 18年度128校(小120校、中8校) 17年度118校(小111校、中7校) 16年度115校(小111校、中4校)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館ボランティア設置校数が平成16年度と比較すると20%増加している。 中学校については、現在小学校で活動していたボランティアの方が中学校へあがることで、今後活動が活発になってくる学校が増えると予想される。 21年度の研修会でも、300名を超える参加があり、意識の高まりが見られる。 小学校においては、学校図書館ボランティアの定着が年々図られてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館ボランティアへの研修の充実・改善 ・読み聞かせの技や、おすすめの本の情報交換 等 ○中学校での学校図書館ボランティアの立ち上げ ・先進的な取組の紹介 	B	継続
45	「学生サポーター」制度の活用	教育委員会学校支援課 教育委員会学校指導課	<ul style="list-style-type: none"> 学生サポーター活動報告会で読書活動に関わる事例の紹介 各種広報誌で事例紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせのサポートをすることで、児童に読書の楽しさを味わわせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生サポーターを活用した読書活動の工夫 読み聞かせを実施する場合、学生サポーターとの時間調整 	B	継続
特別支援学校							
46	適切な図書の選定、読み聞かせの積極的な推進	教育委員会発達教育センター	<ul style="list-style-type: none"> 長期の絵本展示を実施するとともに、読み聞かせに関するパネル展示を併せて行う 【新】発達教育センターにおいて、5月より3ヶ月間にわたり、絵本の展示を実施した。併せて、読み聞かせに関するアピールパネルを会場に設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> 【新規】5月～7月の期間、教科書採択に合わせ絵本の展示を実施し、会場にはPRのためのパネルを設置した。 発達教育センターにおいて、5月より3ヶ月間にわたり、絵本の展示をすることで、福岡市立小中学校特別支援学級・特別支援学校の担任教員が絵本を閲覧する機会が提供できた点が評価できる。 また、読み聞かせに関するアピールパネルを設置し、読み聞かせに対する興味関心を少なからず引き出すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせに関するアピールパネルの工夫をし、特別支援学級・特別支援学校の担任への理解啓発を進める。 	B	継続
47	読書活動に関わる教材教具の配備等の読書環境の充実	教育委員会発達教育センター	<ul style="list-style-type: none"> 発達教育センター研修講座において、読書活動に関する教材、教具の研修を行い、特にDVD等のソフト紹介及びPC利用方法等、情報機器の活用法の内容を積極的に取り入れた 課題研修「パソコンを使った教材・教具研修」では、定員を10名から30名へ増員を行った。内容について、読書に関わる情報機器に関する内容を積極的に取り入れるように、講師へ依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度から始まった「パソコンを使った教材・教具研修」は、受講希望者が定員を大幅に上回る人気のある講座だった。 平成20、21年度は土曜日の研修講座の中で「ペープサートの制作」の講座も行なった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「パソコンを使った教材・教具研修」は、以前より受講希望者が減少している。「ペープサート制作」の研修講座を行なう時には、材料等の購入に予算がかかる。 	B	継続

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性
48	余暇活動としての読書の定着	教育委員会発達教育センター	<ul style="list-style-type: none"> 学校指導をとおして教育課程の改善を推進するとともに、読書に関連する余暇活動に関する内容の研修講座を設ける 特別支援学校校長会及び指導主事訪問等で読書活動への取組を推進するよう指導を行った。 	余暇活動の充実については、研修講座の中で部分的に触れることができた。	余暇活動だけの特化したテーマの研修講座がなかなか計画するのがむずかしい。	B	継続
高等学校							
49	朝の読書活動の推進	教育委員会高校教育改革担当	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館担当教員による協議会を継続して開催するとともに、生徒の図書委員の活動等の意見交換会を実施することにより高校図書館の現状を把握し、朝の読書等の推進を図る 毎年6月に各学校の図書館担当者2名ずつによる協議会を開催し、現状と課題等について意見交換を行うとともに、朝の読書活動などの実践事例等を報告した。 	図書館担当者による実践協議会の開催などで情報交換をおこない、朝読書については、2校で取り組むようになり、定着しつつある。朝読書のおかげで落ち着いた雰囲気での授業に入ることが出来るなど効果が現れてきている。全職員で取り組む体制づくりもできている。	朝の読書活動の推進が図れるように、朝課外を実施している学校（朝読書を実施していない学校）について、引き続き検討することが必要である。	C	継続
50	教育課程における読書活動の推進	教育委員会高校教育改革担当	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事との関連を考慮しながら、LHRを利用した集団読書の実施等における読書活動の推進を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館を「総合的な学習の時間」のなかで一部利用するようになり、少しずつではあるが図書館を活用し、読書活動を行うようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門書が必要な学校もあり、教員や生徒たちの求めている本を今後も揃える必要がある。 教育課程に位置づけて取り組むのは難しいという傾向があり、教育課程上に位置づけるためにさらなる研究が必要であり、司書教諭を中心とした組織体制づくりが必要である。LHR等を利用した読書活動の実施は1校であるが、専門学科の課題研究や総合的な学習の時間、進路学習等において図書館を利用する生徒が増加している。 	B	継続
51	文化祭、読書週間の取り組み、ブックフェアの開催	教育委員会高校教育改革担当	<ul style="list-style-type: none"> 担当者協議会により、各学校の特色ある取組や実践について情報交換を行い、読書活動を推進 学校のホームページに図書館のページを開設 読書週間、文化祭での取組の工夫改善を行った 	<ul style="list-style-type: none"> 担当者の協議会において、情報を共有したりしたため、各校においてはブックフェアなどの取組が定着した。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書週間やブックフェアなどのイベントを開催するためには、学校行事や授業との調整が必要であり、充実のためには一層の工夫が必要である。 	B	継続
52	学校図書館の活性化と環境の充実	教育委員会高校教育改革担当	<ul style="list-style-type: none"> 17年度から毎年各学校の読書活動の状況等についての調査を実施 活性化策については、各学校の取組をベースにできるところから取り組んでいくよう指導助言を行った 各学校の図書館の活性化を図るため、福岡地区高等学校生徒図書委員合同研修会には継続して参加し、事例発表や情報交換会を実施 図書のデータベース化システムの共通化 23日に貸出率の高い本のランキングやポスターの掲示 貸出数と利用人数の目標値を設定 福岡市子ども読書フォーラムにおいて、市立4校で参加し、学校図書館活動の展示、生徒による体験教室や読み聞かせ実演等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書フォーラムや読み聞かせなど、いろいろなアイデアを出し、積極的に取り組む事ができるようになった。 それぞれの学校において、パソコンによる情報の検索が行えるようにデータベースなどが整備された。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書フォーラムや読み聞かせなどを継続して実施することが課題である。 学校間や総合図書館などの書籍のデータベースを共有できるような情報システムの環境整備が必要である。 	C	継続

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間での課題	達成度	方向性
学校図書館の機能充実							
53	学校図書館を支援する体制の強化	教育委員会学校支援課 教育委員会学校指導課 教育委員会教育センター 教育委員会総合図書館 教育委員会学事課	○学校図書館支援センター推進事業の受託（18～20年度） ・図書資源の有効活用 ・学校図書館への支援のあり方 ・他都市の状況調査等 ○学校図書館関係者への研修の実施 ○各学校内の蔵書のデータベース化 ○各学校間の蔵書の共有化の検討	・学校図書館教育に関する資料提供及び支援をとおして、朝読書や昼休みの読み聞かせ等の充実を図ることができた。 ・学校図書館の環境整備を図ることができた。 ・学校図書館間の相互貸出を図ることで、図書資料の有効活用を図ることができた。 ・学校図書館への指導・助言を拡大し、支援回数が19年度から20年度は3倍となった。 （平成20年度 51回、19年度 17回） ・本事業で得られた成果を報告書としてまとめ、市内の学校に配付することができた。	○学校図書館への支援体制強化に向けた各課の連携強化 ○学校図書館関係者への研修内容の充実・改善 ○学校内の蔵書のコンピュータ管理の推進 ○各学校間の蔵書の共有化の再検討	B	拡充
54	学校図書館関係者の研修システムの改善	教育委員会学校支援課 教育委員会学校指導課 教育委員会教育センター 教育委員会総合図書館 教育委員会学事課	○教職員対象 ・「本との出会いが楽しくなる読書活動」講座開催（17～19年度） ・「楽しい読書活動」講座開催（20～21年度） ・ブックトーク、アニメーションの演習実施（18～21年度） ○学校司書対象 ・年間4～5回実施 ○学校図書館ボランティア対象 ・学校図書館ボランティア研修会の実施（17～21年度） ・19、21年度は吉田市長のあいさつ	・学校図書館関係者対象の研修受講者が年々増加しており、読書活動の推進・学校図書館の充実に向けた教師の意識の向上が伺える。 ・専門の先生による“ブックトーク”“アニメーション”の講義と演習が充実しており、受講者の評価が高かった。 ・平成18年度からの4年間で、繰り返し受講した先生が数名見られ、熱心な先生によって取り組みが続いていることが分かる。 ・受講者の感想に所属校での実践に生かしたいとの言葉が多く見られた。	○学校図書館関係者への研修内容の充実・改善 ・学校図書館の環境整備の工夫 ・読み聞かせ等の技術 ・調べ学習への図書の活用の仕方等	B	拡充
55	市立小・中・高・特別支援学校の図書の管理	教育委員会学校支援課 教育委員会学校指導課 教育委員会教育センター 教育委員会総合図書館 教育委員会学事課	・ネットワーク化を展望し、データベースのソフトの統一に向けての検討 ・各学校内の蔵書のデータベース化進捗状況調査の実施（導入済校数） 平成21年度 174校 20年度 159校 19年度 144校 18年度 116校 17年度 103校 16年度 84校	○学校内での蔵書のコンピュータ管理の推進 ・16年度（84校）、21年度（174校） ○教育センター授業力向上支援センターの蔵書のデータベース化 ・図書の貸し出し・返却及び、図書資料の検索が可能 ・授業で活用可能な記録映像、教育に関するDVD等の貸出 ・学習指導案に関しては、パスワードをなくし、自由にホームページ上で検索・ダウンロード可能	○学校内の蔵書のデータベース化ができていない学校への支援 ○各学校間の蔵書のネットワーク化の検討（統一ソフト、ネットワーク化のメリット、物流方法学校のニーズ等） ○学校と総合図書館の連携 ・総合図書館の図書資料の共有化 ・図書を活用した授業実践 ・読書活動の推進	C	拡充
56	図書資源の共有化を展望した取組み	教育委員会学校支援課 教育委員会学校指導課 教育委員会教育センター 教育委員会総合図書館 教育委員会学事課	・協力校間での蔵書の相互貸出の実施（城南区6校） ・各学校間の蔵書の共有化の検討 ・総合図書館の蔵書の共有化の検討	・協力校間での図書資料の相互貸出の推進 ・教科学習や総合学習で使用する図書の充実	○学校内の蔵書のデータベース化ができていない学校への支援 ○各学校間の蔵書のネットワーク化の検討（統一ソフト、ネットワーク化のメリット、物流方法学校のニーズ等） ○学校と総合図書館の連携 ・総合図書館の図書資料の共有化 ・図書を活用した授業実践 ・読書活動の推進	C	拡充

子ども読書活動推進計画にかかる事業の成果と課題一覧

No.	施策名	担当課 (現在の課名)	17～21年度までの実施内容	5年間の成果	5年間の課題	達成度	方向性
E 子どもの読書活動について、市民一人ひとりの理解と関心を高めます							
57	子ども読書フォーラムの開催	教育委員会生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 読書フォーラムのための企画会議開催（年5～6回） 読書フォーラムを開催 <ul style="list-style-type: none"> 21年度 10/26,11/21 あいれふ 延参加者 5,195名 20年度 11/21,22 あいれふ 延参加者 5,334名 19年度 11/23 あいれふ 延参加者 4,797名 18年度 9/23 天神エルガーラ 延参加者 4,259名 17年度 10/23 天神エルガーラ 延参加者 3,122名 	<ul style="list-style-type: none"> 読書フォーラムの来場者が年々増加したことも啓発の成果であるが、その企画会議のあり方が、市民との共働事業であり、団体間の交流や情報の交換などで年々盛り上がっていることの成果も大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回、1カ所に集中している現在のやり方も重要であるが、身近な場所でのフォーラムなども今後検討する必要がある。 	A	拡充
58	「福岡市子どもと本の日」の創設	教育委員会生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの生活の場である学校、図書館等での啓発を強化しつつ関係機関との連携を進めながら、子ども読書活動の普及啓発を図る 子どものいる全世帯への啓発リーフレットの配付 幼稚園、学校、図書館、公共施設でのポスター掲示、しおりの配付 市内書店、図書館での啓発しおりの配付、ポスター掲示 市政だより等による啓発 市立学校への毎月23日の啓発メール配信 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のメール配信が浸透してきて、学校等で校内放送での啓発や図書館便りなどへの掲載など、学校独自での啓発活動が拡大している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の取り組みに差が出ているため、学校図書館などでの啓発を進める必要がある。 	B	拡充
59	優良図書の周知普及	総合図書館図書利用課	<ul style="list-style-type: none"> 対象年齢を4段階に分けたモデル児童図書目録を配布 20年度よりモデル児童図書目録（上級）の改訂作業開始 	<ul style="list-style-type: none"> モデル児童図書目録（中級）の改訂版を発行した。 子どもにどんな本を勧めたらいいか悩んでいる大人や、何か面白い本を探してる子どもの、本選びの助けとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> モデル児童図書の存在をあまり周知できていない。 	B	継続
60	効果的な広報啓発の実施	総合図書館図書利用課	<ul style="list-style-type: none"> 「こどもとしゃかんニュース」を発行 <ul style="list-style-type: none"> 発行部数 毎月2900部 配布先 小中学校、幼稚園、保育所、公民館、等 児童文学講演会を開催 <ul style="list-style-type: none"> 内容 児童文学作家、絵本作家を招いての講演（2回） 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい本の紹介や行事の案内、図書館の利用法等を掲載した「こどもとしゃかんニュース」をほぼ毎月発行し、公立図書館、小・中学校、幼稚園、保育所、公民館等にも配布し、こども図書館の利用拡大、情報提供を行った。 また、児童文学作家や絵本作家などを招いて児童文学に関する講演会を開催し、好評を得ている。今後も、「こどもとしゃかんニュース」の発行、児童文学講演会の開催を通して情報を提供していく。 	<ul style="list-style-type: none"> こども図書館ニュースについては、限られた予算の中で、効果的な広報ができるよう、内容や発行方法の工夫検討。 児童文学講演会については講師は著名な作家等より様々な分野で子どもの読書活動推進で活躍している方で検討。 	B	継続
61	「福岡市子ども読書活動推進会議」を設置	教育委員会生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 子ども読書活動推進計画の進捗状況の把握と検証、円滑な読書活動の推進に向けた検討を行うため、学校・図書館などの関係機関からなる「福岡市子ども読書活動推進会議」を設置し、定期的に会議を実施した。 子ども読書活動推進会議（3回開催） 子ども読書活動推進ワーキング会議（3回開催） 	<ul style="list-style-type: none"> 推進会議を定期的に行うことで、計画の進捗状況を把握でき、5年間の経過を確実に知ることができた。この推進会議では、委員が自由に意見を述べることができることから、行政とそれ以外という区別なく率直に意見を交換できた。また、事前にワーキング会議を実施することも各課間の情報交換の場となり、相乗的な効果を生んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 推進会議を定期的に行うことを今後どうすればよりよい情報交換の場となるかを検討する必要がある。 	B	継続